

皆様おはようございます。

クリスマスを来週に控えまして、この冬初めての本格的な積雪がありました。

詩篇 5 1 篇が思い出されます。

51:1 神よ、あなたのいつくしみによって、わたしをあわれみ、あなたの豊かなあわれみによって、わたしのもろもろのとがをぬぐい去ってください。

51:2 わたしの不義をことごとく洗い去り、わたしの罪からわたしを清めてください。

51:3 わたしは自分のとがを知っています。わたしの罪はいつもわたしの前にあります。

51:4 わたしはあなたにむかい、ただあなたに罪を犯し、あなたの前に悪い事を行いました。それゆえ、あなたが宣告をお与えになるときは正しく、あなたが人をさばかれるときは誤りがありません。

51:5 見よ、わたしは不義のなかに生まれました。わたしの母は罪のうちにわたしをみごもりました。

51:6 見よ、あなたは真実を心のうちに求められます。それゆえ、わたしの隠れた心に知恵を教えてください。

51:7 ヒソプをもって、わたしを清めてください、わたしは清くなるでしょう。わたしを洗ってください、わたしは雪よりも白くなるでしょう。

51:8 わたしに喜びと楽しみとを満たし、あなたが砕いた骨を喜ばせてください。

51:9 み顔をわたしの罪から隠し、わたしの不義をことごとくぬぐい去ってください。

51:10 神よ、わたしのために清い心をつくり、わたしのうちに新しい、正しい霊を与えてください。

51:11 わたしをみ前から捨てないでください。あなたの聖なる霊をわたしから取らないでください。

51:12 あなたの救の喜びをわたしに返し、自由の霊をもって、わたしをささえてください。

贖いときよめ、赦しと憐れみに満ちた神様に感謝をおささげいたします。

神様は贖い、救いの角を立て、救いの力を高々と掲げて、民を訪れ、世話し、心配し、選び、探し出して贖い、救い出してくださいました。

神様は旧約聖書に預言してある通り、ひとりのみどりごを通して、イエス様を通してその救いを実現してくださいました。

イザヤ 9:1 しかし、苦しみにあった地にも、やみがなくなる。さきにはゼブルンの地、ナフタリの地にはずかしめを与えられたが、後には海に至る道、ヨルダンの向こうの地、異邦人のガリラヤに光栄を与えられる。

9:2 暗やみの中に歩んでいた民は大いなる光を見た。暗黒の地に住んでいた人々の上に光が照った。

9:3 あなたが国民を増し、その喜びを大きくされたので、彼らは刈入れ時に喜ぶように、獲物を分かち時に楽しむように、あなたの前に喜んだ。

9:4 これはあなたが彼らの負っているくびきと、その肩のつえと、しえたげる者のむちとを、ミデアンの日になされたように折られたからだ。

9:5 すべて戦場で、歩兵のはいたくつと、血にまみれた衣とは、火の燃えくさとなって焼かれる。

9:6 ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり、その名は、「靈妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君」ととなえられる。

9:7 そのまつりごとと平和とは、増し加わって限りなく、ダビデの位に座して、その国を治め、今より後、とこしえに公平と正義とをもって／これを立て、これを保たれる。万軍の主の熱心がこれをなされるのである。

戦い、争い、略奪と死がありました。戦場が広がっていました。その場所にひとりの男の子が与えられました。

その名は、「靈妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君」。イエス様。「主は救い」。

そのイエス様のご支配が始まろうとしていました。

57 さてエリサベツは月が満ちて、男の子を産んだ。

58 近所の人々や親族は、主が大きなあわれみを彼女におかけになったことを聞いて、共どもに喜んだ。

59 八日目になったので、幼な子に割礼をするために人々がきて、父の名にちなんでザカリヤという名にしようとした。

60 ところが、母親は、「いいえ、ヨハネという名にしなくてははいけません」と言った。

61 人々は、「あなたの親族の中には、そういう名のついた者は、ひとりもいません」と彼女に言った。

62 そして父親に、どんな名にしたいのですかと、合図で尋ねた。

63 ザカリヤは書板を持ってこさせて、それに「その名はヨハネ」と書いたので、みんなの者は不思議に思った。

「その名はヨハネ」。天使はその子をヨハネと名付けなさいと言いました。ヨハネ。「主は恵み深い」。そのメッセージが天から注がれました。

ザカリヤとは「神は覚えていらっしゃる」という意味で、後になってみれば、まさしくその通りの名前となりました。慣例では父の名前を受け継ぐということですが、神様にはあわれみのご計画がありました。神様はもちろんその民を覚えていらっしゃる。そして今、神

様は大きな憐れみをもって、贖いによる救いをなして暗闇に光を照り輝かされるのです。

64 すると、立ちどころにザカリヤの口が開けて舌がゆるみ、語り出して神をほめたたえた。

65 近所の人々はみな恐れをいだき、またユダヤの山里の至るところに、これらの事がことごとく語り伝えられたので、

66 聞く者たちは皆それを心に留めて、「この子は、いったい、どんな者になるだろう」と語り合った。主のみ手が彼と共にあった。

67 父ザカリヤは聖霊に満たされ、預言して言った、

ザカリヤが天使の言ったとおりにわが子を命名すると、たちどころに。ザカリヤの口が開けて舌がゆるみ、語り出して神をほめたたえました。ザカリヤは、「神は覚えていらっしゃる」ということをまざまざと考え続けていました。

62 節に、「そして父親に、どんな名にしたいのですかと、合図で尋ねた。」とありますように、ふさぎ込み、粗布で身をまとして他を寄せ付けずに祈り続けていた姿をしていたのかもしれない。

深く深く神様に向き直り、問いかけ、懺悔し、「神は覚えていらっしゃる」ということを考え続けていました。そして妻の所に尋ねてきた親戚マリヤと妻とのやり取りや、高らかなマリヤの賛歌を聞いていたのでしょうか。彼は御使いが名付けなさいと語った「ヨハネ」という名前のことも考え続けていました。

「主は恵み深い」。「主は恵み深い」。「主は恵み深い」。

マリヤの賛歌を聞き、神様がザカリヤとエリサベツ、そしてマリヤとヨセフに神様がどんなに大きな事をしようとしておられるのかを大きく大きく考え続けたザカリヤでした。

イエス、「主は救い」。ヨセフ、「主は恵み深い」。

「この子は、いったい、どんな者になるだろう」と人々は語り合いました。主のみ手が彼と共にありました。

やがて殉教の死を遂げるヨセフ。そして十字架の死を遂げるイエス様。ここでわが子の誕生を喜ぶ人たちはどのような苦しみに落とされることでしょうか。それでも彼らは「神は覚えていらっしゃる」、「主は恵み深い」、「主は救い」と告白し続けることができるのでしょうか。しかし私たちは先の先のことまでは知らなくてもよいのです。「主のみ手が彼と共にありました」。

大きな神様からの救いの御業を知らされ、彼は聖霊に満たされ、預言して言いました。

68 「主なるイスラエルの神は、ほむべきかな。神はその民を顧みてこれをあがない、

69 わたしたちのために救の角を 僕ダビデの家にお立てになった。

70 古くから、聖なる預言者たちの口によってお語りになったように、  
71 わたしたちを敵から、またすべてわたしたちを憎む者の手から、救い出すためである。  
72 こうして、神はわたしたちの父祖たちにあわれみをかけ、その聖なる契約、  
73 すなわち、父祖アブラハムにお立てになった誓いをおぼえて、  
74 わたしたちを敵の手から救い出し、  
75 生きている限り、きよく正しく、みまえに恐れなく仕えさせてくださるのである。  
76 幼な子よ、あなたは、いと高き者の預言者と呼ばれるであろう。主のみまえに先立って  
行き、その道を備え、  
77 罪のゆるしによる救を その民に知らせるのであるから。  
78 これはわたしたちの神のあわれみ深いみこころによる。また、そのあわれみによって、  
日の光が上からわたしたちに臨み、  
79 暗黒と死の陰とに住む者を照し、わたしたちの足を平和の道へ導くであろう」。

人の世の中に暗闇がありました。弱肉強食の論理があふれていました。憐れみと救いは影を  
潜めていました。人々はメシア・救い主を長らく待望していました。しかしそれは政治的な  
意味での救い主であったのかもしれませんが。「わたしたちを敵から、またすべてわたしたち  
を憎む者の手から救い出すため」、神様は古くから、聖なる預言者たちの口によってお語り  
になられました。神はわたしたちの父祖たちにあわれみをかけ、その聖なる契約、すなわち、  
父祖アブラハムにお立てになった誓いをおぼえて、わたしたちを敵の手から救い出して下  
さいました。エジプトでの苦役から、バビロンの捕囚から、神の民を救い出してくださいま  
した。そして今、ローマの圧政から救い出してくださいるに違いない。しかしそれだけなので  
しょうか。

「罪のゆるしによる救を その民に知らせる」。

すべての混乱の原因はここにありました。罪の赦しが必要なのです。本当の救いは、罪の  
赦しからやって来るのです。

神の救いを待ち望み、憎むべき敵の手から救いたまえと祈り続けていました。政治的な開放  
を求めています。国の発展と個人の祝福を祈っていました。救いを待ち望んでいました。  
しかし、救いは、罪の赦しからやって来るのです。

68節、「神はその民を顧みてこれをあがない、」とあります。

民を顧みて。顧みてという言葉は美しい言葉です。これは神様が選んで、探して、心配して、  
配慮して、憂慮して、訪ね、世話をして下さるという意味です。まさに失われた一匹の羊の  
例え話を思い出させます。そして神様は愛するがゆえに、覚えていて下さるがゆえに、あわ  
れみのゆえに贖ってくださいます。イザヤ43章のこの御言葉の通りです。

43:4 「あなたはわが目に尊く、重んぜられるもの、わたしはあなたを愛するがゆえに、あなたの代りに人を与え…」

1:70 古くから、聖なる預言者たちの口によってお語りになったように、  
1:71 わたしたちを敵から、またすべてわたしたちを憎む者の手から、救い出すためである。  
1:72 こうして、神はわたしたちの父祖たちにあわれみをかけ、その聖なる契約、  
1:73 すなわち、父祖アブラハムにお立てになった誓いをおぼえて、  
1:74 わたしたちを敵の手から救い出し、

私たちの敵、私たちを憎む者の存在。

黙示録の中に獣たちの存在が描かれていました。彼らの暗躍が記してありました。

1 ペテロ 5:7 神はあなたがたをかえりみているから、自分の思いわずらいを、いっさい神にゆだねるがよい。

5:8 身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのよう、食いつくすべきものを求めて歩き回っている。

5:9 この悪魔にむかい、信仰にかたく立って、抵抗しなさい。あなたがたのよく知っているとおりに、全世界にいるあなたがたの兄弟たちも、同じような苦しみの数々に会っているのである。

エペソ 6:10 最後に言う。主にあつて、その偉大な力によって、強くなりなさい。

6:11 悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。

6:12 わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。

6:13 それだから、悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ちうるために、神の武具を身につけなさい。

もしも私たちが、目には見えない敵、私たちを憎む者たちの存在を何か絵空事のように上の空の事のように考えるのでしたら、それは私たちの救いへのピントをぼかすものです。

73 すなわち、父祖アブラハムにお立てになった誓いをおぼえて、

74 わたしたちを敵の手から救い出し、

75 生きている限り、きよく正しく、みまえに恐れなく仕えさせてくださるのである。

生きている限り、清く正しく、御前に恐れなく仕えさせていただくことを大した事で

もない、当たり前のことと思うのならば、私たちの救いは本当にちっぽけなものです。しかし、神様は大きな大きな憐れみのゆえに、私たちにその救いを与えて下さいました。

78 これはわたしたちの神のあわれみ深いみこころによる。また、そのあわれみによって、日の光が上からわたしたちに臨み、

79 暗黒と死の陰とに住む者を照し、わたしたちの足を平和の道へ導くであろう」。

先にも挙げましたイザヤ9章です。人はその罪のゆえに、暗黒と死の陰とに座りつくす者となってしまいましたが、神様は独り子の贖いによってその民に光を当て、その足を平和の道へと導いて下さいました。平和とは調和という意味をも持ちます。人が独りよがりになり、バベルの塔を建てて神様に届き並ぶ者となり、神様に白黒を言わせないようにと人は考えましたが、神様は人と人との間に混乱を送り、互いに意思が通じないようにされました。誤解が生じ、無理解が生じ、党派による戦いが生まれ、強い者が弱い者をいじめるようになりました。人の足は戦闘と殺戮、悲惨へと向かいました。暗闇と死の陰が人の世を覆いました。罪によって悲惨の暗闇が覆いましたが、神様はあわれみのゆえに、民を顧み、民を顧みて天から救いの夜明けの光を与えて下さいました。憐れみ、贖い、敵の手から、私たちが憎む者の手から、その影響の力から私たちが引きはがして、愛する御子のご支配の中に入れて下さいました。

コロサイ 1:13 神は、わたしたちをやみの力から救い出して、その愛する御子の支配下に移して下さいました。

1:14 わたしたちは、この御子によってあがない、すなわち、罪のゆるしを受けているのである。

罪の赦し、贖いによる赦しによる救いを与えて下さいました神様に感謝いたしましょう。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。敵から、私たちが憎む者の手から、暗闇から、死の陰から、憐れみと救いの力とによって、私たちが救い出して下さいまして、希望と祝福と平和の光を昇らせて下さって、本当にありがとうございます。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会う

ことができますようお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々  
を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン